昆虫類

確 認 種

昆虫類は 16 目 132 科 354 種を確認しました。目別の構成をみると、コウチュウ目が 27 科 78 種、チョウ目も 22 科 78 種で最も多く、ついでカメムシ目の 24 科 61 種、ハチ目の 14 科 51 種などでした。

市内に生息する昆虫類などの特徴としては、調査した緑地同士が離れていても、飛翔して移動でき、比較的目につく大きさのチョウ類が目立ちました。また、カメムシ類などは植物体にいる個体が記録されることが多かったようです。

今回の調査では目視と網による捕虫が中心であったため、地表性の昆虫類の記録は少ない結果となりました。

昆虫類の目別の科数・種数

No.	目名	科数	種数
1	トンボ	6	13
2	カワゲラ	1	1
3	ゴキブリ	1	1
4	カマキリ	1	3
5	シロアリ	1	1
6	ハサミムシ	1	2
7	バッタ	12	32
8	ナナフシ	1	3
9	チャタテムシ	3	3
10	カメムシ	24	61
11	アザミウマ	1	1
12	アミメカゲロウ	2	2
13	チョウ	22	78
14	ハエ	15	24
15	コウチュウ	27	78
16	ハチ	14	51
合計		132	354


シマサシガメ

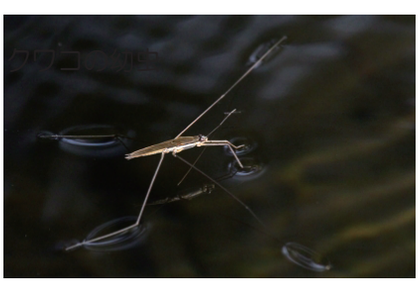

サトキマダラヒカゲ


アオオサムシ

希 少 種

都 RDB 掲載種を 10 種確認しました。この中には、草地性のバッタ目であるショウリョウバッタモドキやクマスズムシ、キンヒバリ、ヤチスズ、樹林性のヒグラシやウラナミアカシジミ、ヒラタクワガタ、水辺性のオオアメンボなどが含まれていました。


ショウリョウバッタモドキ
（都 RDB：VU）


オオアメンボ
（都 RDB：DD）


ウラナミアカシジミ
（都 RDB：DD）

外 来 種

外来種としては、７種を確認しました。

このうちアカボシゴマダラは、西恋ヶ窪緑地などで春期から秋期まで確認し、定着しているようでした。本種は、外来種リストで重点対策外来種に指定されており、市内でも生息が確認された在来種のゴマダラチョウとの競合が懸念されます。

このほか、アオマツムシ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、ベダリアテントウ、アメリカミズアブ、セイヨウミツバチを確認しました。南方系のキマダラカメムシは、３ つの調査地で確認され、分布を広げていることが伺えました。



アカボシゴマダラ
（重点対策外来種）



アオマツムシ



キマダラカメムシ

クモ類

確 認 種

クモ類は、2 亜目 17 科 60 種を確認しました。このうちハエトリグモ科が 17 種と最も多く、次いでコガネグモ科を 12 種確認し、これらのグループだけで 48%と、全確認種の半数となりました。

獲物の捕獲方法によって分けてみると、歩き回って獲物をとらえる徘徊性のクモ類が 28 種、網を張る造網性のクモ類が 27 種とほぼ同数になりました。どちらも比較的目につきやすいことから、記録が多かったものと考えられます。

注目される種として、近年北へ分布をひろげているマルゴミグモを記録しました。

クモ類の亜目別の科数・種数

No.	亜目名	科数	種数
1	トタテグモ	2	2
2	クモ	15	58
合計		17	60



マルゴミグモ



オオシロカネグモ



ハツリグモ

希 少 種

クモ類の希少種としては、国 RDB 及び都 RDB 掲載種を１種確認しました。いずれもキシノウエトタテグモで、社寺林や屋敷林など、都会化されていない人里環境で見られるクモです。

※クモ類の外来種は、今回の調査では確認できませんでした。



キシノウエトタテグモ
（国 RDB：NT　都 RDB：NT）

水生生物

確認種

水生生物のうち、昆虫類は７目 13 科 19 種（※このうち２目６科 14 種が昆虫類調査で確認していないもの）、魚類は３目４科７種、甲殻類などのその他の種は６目 10 科 12 種を確認しました。

市内に生息する水生生物の特徴として、湧水環境の指標となるオニヤンマ、ヤマトクロスジヘビトンボ、サワガニがいたことが挙げられます。これは湧水地を有する国分寺市の環境を示す種と言えるでしょう。



オニヤンマの幼虫

昆虫類の目別の科数・種数

No.	目名	科数	種数
1	カゲロウ	1	1
2	トンボ	2	2
3	カワゲラ	1	1
4	カメムシ	1	4
5	アミメカゲロウ	2	2
6	トビケラ	3	5
7	ハエ	3	4
合計		13	19

魚類の目別の科数・種数

No.	目名	科数	種数
1	コイ	2	5
2	ダツ	1	1
3	スズキ	1	1
合計		4	7

甲殻類などその他の水生生物の目別の科数・種数

No.	目名	科数	種数
1	ウズムシ	1	1
2	ミミズ	3	4
3	ニナ	1	1
4	ワラジムシ	1	1
5	ヨコエビ	1	1
6	エビ	3	4
合計		10	12

希少種

国 RDB 掲載種として魚類１種を、都 RDB 掲載種として昆虫類２種、魚類２種、甲殻類１種の計５種を確認しました。

このうち、国 RDB で絶滅危惧Ⅱ類、都 RDB で絶滅危惧Ⅰ類であるメダカは、人工的に造られた池で確認したことから、放流された個体群だと考えられます。しかし、形態的には、ミナミメダカと呼ばれる、本来の分布に合ったタイプであることから、周辺に生息していた個体群の可能性も考えられます。



ヤマトクロスジヘビトンボ（都 RDB：NT）



メダカ（国 RDB：VU、都 RDB：CR+EN）



サワガニ（都 RDB：NT）

外来種

外来種としては、アメリカザリガニ１種を、姿見の池や真姿の池周辺で確認しました。

本種は外来種リストの掲載種で、緊急対策外来種に指定されています。同じ池に生息する水生生物などを食害することが懸念されます。

また、種までの同定はできませんでしたが、カラドジョウ属の一種と考えられる個体も確認しました。カラドジョウであれば、外来種リストでその他の総合対策外来種に指定されています。



アメリカザリガニ（緊急対策外来種）